

ラジオのデジタル化について

08 | 4226 稲垣 智世

1. ラジオの歴史

ラジオ放送は 1900 年にアメリカのフェッセンデンが初めて行い、日本では 1925 年 3 月 22 日に仮放送が、同年 7 月から愛宕山から本放送が始められた。

現在放送されているアナログ放送は、電波（中波、短波、超短波）、変調方式（AM, FM）、地上波か衛星（CS, BS）かで分類することができる。

2. デジタルラジオ

デジタルラジオとは、本来アナログ信号である音声信号をデジタル信号に変換して放送するものである。デジタル信号にすると、ノイズや信号の劣化が防げ、高品質の放送がおこなえるほか、音声だけでなく、マルチメディアの送受信も可能になる。

テレビのデジタル化移行によって空く VHF 帯を利用し、今後マルチメディア放送を実施していく予定である。

しかし、テレビと異なりラジオはアナログ放送が停止されるわけではないため、デジタルへの参入に消極的なローカル局も多い。また特別の受信機が必要なことも問題である。

3. インターネットラジオ

インターネットで音声を送信するものである。データをダウンロードしながら同時に再生するストリーミング型と、音声ファイルをまとめて受信して聴取するダウンロード型がある。ストリーミングには一般のラジオ放送のように番組の放送時間が決まっているリアルタイム型と、いつでもアクセスできるオンデマンド型がある。

ストリーミング配信では、radiko、らじる☆らじる、ねとらじ等が有名で、オンデマンド配信ではケロログ、Seesaa ブログ等がある。



4. インターネット放送に関わる著作権

インターネット放送に関わる著作権として、公衆送信権、送信可能化権、著作隣接権がある。

JASRAC、日本芸能実演家団体協議会、日本レコード協会が著作権集中管理団体であり、放送番組をインターネットで配信する場合の音楽の許諾などを一括代行している。

5. 実施例調査

実際にインターネットラジオを放送している、NPO 法人豊橋ブラジル協会に訪問インタビューを実施した。

豊橋ブラジル協会は、在日ブラジル人との共生、調整役として2004年9月に発足した。インターネット・ラジオ RadioNikkei は2006年頃始め、インターネットを通じて日系ブラジル人が日本でより暮ら



しやすくするための情報提供をするのが主な狙いとしている。アクセス数も多く、ネットラジオの反響は大きいようである。

ラジオ内で流れる音楽は全て海外のもので、ブラジルの団体から許可を得ている。JASRACにも許可取得済みだが、日本の曲は利用できない。日本の曲を流すには、個々に許可が必要だ。

6. 考察

テレビが完全地上デジタル化されたことにより、ラジオのデジタル化があるが、現在大きな進展はない。

radiko等のインターネット・ラジオでは、アナログラジオと同じ番組を視聴することができる。ラジオ機器がなくてもインターネットに接続してさえいれば情報を得ることができ、便利である。スマートフォンでもアプリを利用すれば視聴することができ、ラジオがより身近になったように思う。

現在はデジタルとアナログが共存していて、まだ試行錯誤の状態のようだ。今後このまま共存していけるか、動向に注目していきたい。